

Rd. 4

APR 2013

平成25年8月1日発行

RACING PRESS

apan

SUPER GT ROUND 4
SUGO



Super GT
Series 2013

GT

Round 4
SUGO

7/27-28

DUNLOP
DIREZA SPORTMAX

夏本番を迎え、2013 AUTOBACS SUPER GT 第4戦は300kmレースとして開催された。前半戦の最後のレースでもあり、GT500・GT300クラス共に混戦を見せており熱いバトルが予想された。すでに3戦を終了しホンダ、レクサス、日産がそれぞれ1勝を飾り、どのチームが先に2勝目を狙うか、タイトルに向けた重要な戦いとなる。予選日は早朝から霧が出て、公式練習中は視界が確保できず途中でセッションが中断するほど。不安定な状況下から一転、予選は薄曇りの中で行われ、No.1 REITO MORA GT-Rが今季初めてのポールポジションを獲得した。

Text
島村元子

Editor
吉川綱憲

Photo
鉄谷康博
中村住史
原 勝弘
榎原寿雄

Cover Photo
鉄谷康博



ARTA が完勝で 2 クラスを制覇!

DIREZZA SPORTMAX



社の都・仙台にほど近いスポーツランド菅生で繰り広げられたSUPER GT第4戦。壮絶な攻防戦はサバイバルレースと化した。そんな大荒れにレースで勝利の美醜に酔ったのは、No.8 ARTA HSV010 (ラルフ・ファーマン / 松浦孝亮組)だった。

壮絶なバトルの末、ARTA HSV-010 が大逆転勝利！



迎えた翌日の決勝日、午後の決勝を前にSUGOには湿った夏の暑さが舞い戻る。予選で勢いをつけた1号車が決勝でも同様にレースを牽引。そこに予選2位No.39 DENSO/KOBELCO SC430 (脇阪寿一／石浦宏明組)が続き、その後方では、No.38 ZENT CERUMO S430 (立川祐路／平手晃平組)とNo.18ウイダー モデュール HSV-010 (山本尚貴／フレデリック・マコヴィッキ組)が序盤から激しい攻防戦を見せた。レースは、ルーティンワークのピット作業を終えて徐々に変化が生まれていく。2位の39号車がピットで1号車を逆転、さらに38号車が2台に割り込み、壮絶なポジション争いへ。脇阪、本山、立川らGT界のトップドライバーによるバトルは大きな見どころとなった。だが終盤、彼らを含む多数の車両がバトルの末に接触。代わってトップに立った8号車は予選6番手スタートだっただけに、粘りのあるレース運びが今回の勝利を呼び寄せたといえる。



GT500



GT500 決勝結果

優勝	No.8	ARTA HSV-010	ラルフ・ファーマン / 松浦孝亮
2位	No.37	Keeper TOM'S SC430	伊藤大輔 / アンドレア・カルダレッリ
3位	No.23	MOTUL AUTECH GT-R	柳田真孝 / ロニー・クインタレッリ
4位	No.39	DENSO KOBELCO SC430	脇阪寿一 / 石浦宏明
5位	No.24	D'station ADVAN GT-R	安田裕信 / ミハエル・クルム
6位	No.6	ENEOS SUSTINA SC430	大嶋和也 / 国雄資貴
7位	No.1	REITO MOLA GT-R	本山 哲 / 関口 雄飛
8位	No.32	Epson HSV-010	道上 龍 / 中嶋大祐
9位	No.19	WedsSport ADVAN SC430	荒 聖治 / アンドレ・クート
10位	No.36	PETRONAS TOM'S SC430	中嶋一貴 / ジェームス・ロシター

2nd

3rd

速い!強い! No.55 ARTA CR-Z GT が 2連勝を飾る!

今回の予選でポールポジションを獲得したのは、No.61 SUBARU BRZ R&D SPORT (山野哲也/佐々木孝太組)。前回第3戦セパンではポールを取り損ねたが、今シーズンは予選での一発の速さが抜きん出ている。それだけに、決勝ではBRZとしての初勝利を目論んでいたはずに違いない。だが、レース本番で本領発揮となったのは、同じJAF GT車両ながらハイブリット車であるCR-Z勢だった。終盤、No.55 ARTA CR-Z GT (高木真一/小林崇志組)をNo.16 MUGEN CR-Z GT (武藤英紀/中山友貴組)が攻め立てたが、予選でも先行した55号車に分があったようで、そのまま逃げ切りに成功。前戦に続いての連勝を果たし、GT500とともに両クラスを制した。



GT300 決勝結果

優勝	No.55	ARTA CR-Z GT	高木真一 / 小林崇志
2位	No.16	MUGEN CR-Z GT	武藤英紀 / 中山友貴
3位	No.0	ENDLESS TAISAN PORSCHE	峰尾恭輔 / 横溝直輝
4位	No.52	OKINAWA-IMP SLS	竹内浩典 / 土屋武士
5位	No.87	ラ・セーヌ ランボルギーニ GT3	山内英輝 / 吉本大樹
6位	No.61	SUBARU BRZ R&D SPORT	山野哲也 / 佐々木孝太
7位	No.62	LEON SLS	黒澤治樹 / 黒澤 翼
8位	No.21	ZENT Audi R8 LMS ultra	都筑昌裕 / リチャード・ライアン
9位	No.3	S Road NDDP GT-R	星野一樹 / 佐々木大樹
10位	No.10	GAINER Rn-SPORTS DIXCEL SLS	田中哲也 / 植田正幸

GT300

THE WINNER

CLOSE-UP

No.8 ARTA HSV-010

Text by Motoko Shimamura

Photo: Yasuhiro Tetsutani



元F1パイロットの監督・鈴木亜久里をはじめ、 華やかなキャリアを持つ人気チームが3年ぶりの勝利

今シーズンの折り返しを迎えた第4戦・SUGO。予選日は天候不良で朝のセッションから中断を繰り返すなど落ち着かない状況が続いた。決勝日は天候こそ真夏の暑さに戻り、ドライコンディションでの戦いが繰り広げられたのだが、その戦いの中身は大波乱の展開となり、そこで底力を見せたのが、AUTOBACS RACING TEAM AGURIの8号車ARTA HSV-010だった。

予選こそ1号車のGT-Rが奪ったが、レースそのものは過激なトップ争いが真夏の暑さの影響か、さらにヒートアップ。コース上で接触

事故などのハプニングが続出。荒れ模様のレースへとなってしまった。新たなトップ争いが再び形成され、そこに新たなドラマを運んできたのが、招かざる客ともいえる雨だった。

滑りやすい路面、依然として続く過酷なトップ争い…。終盤に入り、なんとトップ争いの2台が接触し、戦いから脱落。その背後にいた後続車も立て続けにこのハプニングに巻き込まれ、サーキットは騒然となる。その中で、しぶとく生き残った8号車は終盤の勢いを味方に、鮮やかな逆転劇を見せて、優勝をさらうことになった。

今シーズンからGT500に再び咲きを果たした松浦孝亮。2001年からはドイツに渡り、F3をはじめとする武者修行に動いた。その後はホンダのバックアップを受けてインディカーシリーズにも参戦。2009年からは日本に再び活動の場を戻している。一方、コンビを組むラルフ・ファーマンは2005年からチームに加入。日本ではフォーミュラ・ニッポンでシリーズチャンピオンを獲得した経験を持ち、翌年はF1にも参戦したキャリアの持ち主。国内外で培った経験値をチームに惜しみなく注ぎ込み、このたびの勝利を手にする事となった。



*Special
Eye*



Photo by: **Yoshifumi Nakamura**